

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム遊宴柏
(ユニット名)	雅ユニット
所在地 (県・市町村名)	千葉県柏市柏1007-1
記入者名 (管理者)	上原芳枝
記入日	平成19 年 12 月23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		入居前にご利用者基本情報シートに基づき日常生活の状況をできるだけ詳しく把握し、在宅での暮らしの延長線上にある暮らしができるよう取り組んでいます。近所の散歩、スーパーでの買物、小学校での行事、地域のもようし物に参加、敬老会招待
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日々のケアの際、業務中心になりがちのユニットも見られるので利用者の立場にたつてのケアに向けてスキルアップをしていく
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	説明会に出席された地域の方々、他の事業所職員も参加されましたが日々の暮らし方、地域、医療との連携、認知症という病気、行動障害等まだまだグループホームとは、が理解されていないが多かったことにはびっくりしました。更に説明会は今後続けて生きたいと思いました
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		子供たちにもクリスマス会には参加してもらっている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	交通安全に取り組んでいる。		
共有				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を反省し質の向上に活かし改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会に出て買物など職員としているのを見て偏見の目や、言葉で傷ついていることがまだまだ現実にあることを知ってそ一部のご利用者だけは、出来るだけ配慮をしている。ゆうしょくの食材の件で、冷凍食品は止めてほしいとの希望があり他の食材屋を変更して満足をして頂いている。	○	認知症を正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることから始めましょうと、H20年1月26日に皆で作ろう、認知症にやさしい街づくり2008公開講座を企画できました。(主催、柏市認知症にやさしい街づくり会議)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会での集団指導、研修会の同席、実地指導等色々質の向上に向けて話し合いをしている。		提出書類も直接担当者に確認していただく。入居者以外の方の相談もあり直接役所に問い合わせ確認していることもある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修をうけています。	○	今後研修の受講を順に勧めていきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、研修を受講し虐待が見逃されることが無いように職員全員に説明しマニュアル 作り防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書にて説明同意を得更に質問疑問等を尋ね理解、納得を図っている。	契約時に、入居の際、退去の際、解約、入院をする際のことを十分に説明し納得していただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示可能なご利用者にはカンファレンスに参加していただき、不満、苦情希望を職員、に伝えられるように個別に声をかけて表せる機会を作っています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に来所されている家族には、その際に報告し健康状態、金銭出納帳の状況、殆ど来所されない家族には個別に手紙、電話、遊宴便りを郵送して近況報告と個々に健康状態をお知らせしています。(都内に住所のある方が9名おりますのでそれぞれの事情で中々来所が難しい家族もあります)	生活状態、健康状態はその都度変化があれば報告し、便りと写真を郵送し見ていただき、職員の移動等も家族会を通じてお知らせしています。金銭管理は定期的に来所される方が多いのでその時清算して金銭出納帳お預かり金を入れて頂いています。個々にあわせた報告をしています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会で意見を出していただいています。運営者に報告して改善できるところは改善にもっていき運営できています。	食材の件で冷凍食品は、止めて下さいという希望もあり早速運営者に報告して希望通りに良い結果に改善が出来ました。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い職員の意見を出し合い反映させている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	できるだけ通院などシフト上職員体制が難しい中3ユニットで協力し合いながら人員の調整をしています。	○ ユニットリーダー、管理者とで調整をして、家族の状況、要望に対応していますが、かなりの無理を職員がしているので一日も早く人員確保を運営者にお願いしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるよう採用時研修等で教育されたりしていますが人員不足が続いています。移動はあまり無いです。	○ 人材がいらないため理念に近いケアを意識付けに努力をしても新入社員の指導も中々出来ないこの頃です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で管理者の定例会にて研修会を毎月設けている。入社時採用時研修を行っている。	管理者が法人外の研修、を受ける機会をを確保している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、柏市グループホーム連絡会での交流会、見学会、勉強会を設けてお互い刺激を受け合い質の向上に取り組んでいます。	いつも連絡を取り合い困っている利用者、家族の問題をお互いに協力し合っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者、職員のストレスになっている。	○ 運営者と理念が共有できない気がしてならない
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場、のハードな面、ソフトの面、両面をしっかりと見すえてもらい努力や実績を認めてもらいたい。	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期には、本人からよく聞き、まずは、前端的受容からはじめ、不安を除き、信頼感をきずいていきます。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何回か面談をして、家族の一番の不安、困っていること求めていることをよく聞き、受け止められるかも確認して職員と努力をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の一番困っていることを先ず聞きます。状態を把握して必要な支援を見極め他のサービスも含めて対応に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の好きなこと、嫌がること性格などを聞き、把握した上で、環境を作り、説明し納得してから場の雰囲気慣れ、自分が発揮できるものであれば更に馴染んでいただけるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な声かけにならないように納得をえてからケアするように心がけている。	○	一部の職員と一緒に過ごす関係じゃなくて介護する側、の気持ちだけで接してしまう資質の問題が見えるので基本的なところを見直していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の生活状況、利用者との関係でバラつきはあるものの、異変時には、早急に連絡し、通院等協力を仰いでいる家族もある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いにストレスになっていたことが少しでも軽減されてきて本人と家族との関係が 心にゆとりがもてて優しくなれたといっている家族もいました。		介護者の介護の負担の軽減になっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と疎遠にならないように、馴染みの人と出かけたり、関係が途切れないように、自由にしていただけるように 支援しています。		馴染みの場所、趣味等に関する場所にお連れする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は、把握しているが、一人を好む方もおり、一方的に嫌悪感を示す方もおり、無理に関係を作ろうとはしていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在ではまだサービスが終了しても特別に関わりを必要としている利用者、家族はいませんが、空き室の 問い合わせ他のサービスの事の問い合わせには協力しています。、		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の順番、時間帯に希望がある方は、希望に添えるように努めている。朝食時もパンを好む方には、パンをお出ししている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談、バックグラウンドを活用して、ご本人の今までの暮らし、歴史、を理解しています。	○	日常会話の中で、今までの生活が分かる様、 回想法を交えながら引き出したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居以前に1日の過ごし方、心身状態、残存機能等を、アセスメントして総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	グループホームの場合は、包括的にサービスを行っているので個人的に必要な、リハビリ、文化、外出、等に反映した介護計画にしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	重要な問題が起きた時には、介護計画を無視して、緊急ミーティング、カンファレンスを開いて新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、ケアプランに基づいた課題を共有し、見直し、介護計画に活かしています。	○	毎日の生活記録と、月次支援経過への記録の重複や、どちらに記入すべきか迷うなどしっかり使いこなせていない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月の受診、家族が無理な時、馴染みの美容室、個別での買物、入院時の介助とう等本人や、家族の状況に柔軟な、支援をさせていただいています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員(、ボランティア、文化、警察、消防、教育機関等と協力しながら、支援しています。	○	近くの小学校の生徒、中学校の生徒さんとの交流を深めていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していませんがお互いに話し合い必要があれば利用できるように支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅の方からの相談があり初めてサービスを利用するに当って後見人のことについても話し合いました。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にも納得していただき、往診日以外にも電話連絡で適切な対応で指示を出してくれます。緊急時等もし入院となっても早期に退院の予定に出来るだけ配慮をしてくれています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		いつでも携帯に電話してもいいですよ、と言われ早めに相談に乗っていただいております。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		できる範囲で夕食時、昼食時には、やりくって職員が食事が摂り安いように見守り、声かけ、レベル低下を最大限に抑えたい為に足を運び、安心してもらえるように努力をしています。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	医療連携体制を整え職員の知識技術アップ、質の向上を目指していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		何度も受け入れ先と情報を交換し、家族も本人も落ち着いて暮らされています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーをそこねる言葉かけや対応はしていません。記録等もイニシャルで個人ファイルを作りキャビネットの中に鍵をかけて管理しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	希望を表せるように声がけをし、一人ひとりに合わせた説明をし、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援しています。	一部の利用者は、殆ど目が見えない方なのでとても音や、職員の声のトーン、早口には理解ができないので出来るだけ本人の側で静かに話しかけるように、本人の話にも共感する言葉をかけるように全職員が配慮していくよう努力していきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ADL的にスタッフ1名では、目配りに難しい面があり、その日の勤務数によっては、外出に関して、希望に添えないことがある。	○ 全職員が、その人のその 時をを知りえた上で自由にかつ自立支援をしていけるようにスキルアップしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一部の利用者は、本人の望む美容院にお連れしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや、力を活かしながらご利用者と一緒に準備や、(野菜切り、盛り付け)食事、片付けをしていただいている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコ、飲み物、おやつ等一人ひとりに合わせて支援しています。	○ 現在は、酒、タバコを飲まれる人はいませんが以前はタバコを吸う人が場所を決めて吸っていました。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の度、記録しているがパターンをつかむのが困難な方、チョロ、チョロ、と出てしまう方等、パット内失禁を減らすのは困難です。	○	失禁前の前誘導が出来るよう努力していきたいと思っています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に決めていないで毎日入っているご利用者もいれば、ほぼ全介助の人もいますが声かけてタイミングに合わせて入浴したり、気が進まない時は、足浴をしてゆっくり温めてから休んでいただいています。便失禁があった日等柔軟に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	車イスのご利用者、目が不自由なご利用者、一人では歩行困難なご利用者が多いため状態に応じて休息の声かけし居室に誘導し1時間程度休んで頂く時もある。就寝時間、消灯時間は、決めていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事が得意な人、掃除が得意な人、ここの得意、不得意、を見極めて声かけをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援しています。		個人で財布を持っている方(小銭)はいるが管理するのは難しく、小物を買う際も、こちらで管理している財布から払っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候を見ながら遊宴周辺を散歩、あるいはドライブ、買物に出かける。		近くの健康センターに行き芝居を見にいたりしてます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家の中でじっとしていたい人もいますので行きたい人はコンサートを見に行ったり、家族と共に法事の席に出席していただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	目が不自由な方と、耳が聞こえない方が多いユニットなので職員が間に入って電話はしていますが、手紙は家族、親類から一方的に絵葉書等が送られてきたのを一緒に読み喜んでおられます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるように契約時にも気軽によっていただきたいとお話しています。		いつでも自由に来て頂いていますが行事がある時は前もって連絡し馴染みの人にも声をかけています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その日のシフトに入っている職員同士が把握、声かけし合うようにして安全に配慮しています。特に排泄、入浴時には気をつけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所、流し台をいつも掃除をしいたいご利用者が調理中の鍋に洗剤を入れたり、調味料との区別、清潔、不潔の区別が分からなくなっているの、その都度状況を見て、注意の必要な物は上の棚に置くようにしています。		薬、洗剤、危険と思われる物は、とりあえず上の棚に置き布巾はそのご利用者専用用意し、自宅で何年もやって来て役割だと思っていますので安全に自由に出来るように配慮しています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのご利用者の日常動作、日々の健康状態、現存機能、をアセスメントし、その人にとっての安全に暮らすために一番危険な時は何かを課題としてケアプランに上げて、職員全員が共有して事故防止に取り組んでいる。	○	全職員が、その人のその 時をを知りえた上で自由に生活ができ自立支援をしていけるようにスキルアップしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではできなかったが交代に消防署の職員の指導を受けました。	○	新入職員も予定を組み講習を実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	東台町会は、一人一人の心がけそして地域のつながりを大切に防災訓練を実施していますので訓練に参加させていただいています。		最近では、19年12月2日消化訓練、消防署への連絡訓練、起震車体験など消防署の職員の指導を受けました。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	大小に関わらず契約時、事あるごとに説明し、リスクについて理解を得協力も得られるように一番良い対策を話し合っています。		カンファレンスの際は課題を抽出し、家族にも了解、協力を得て注意を怠らないように意識付けている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、入浴前後に血圧体温を測っている。その他にも体熱感、食欲の有無、咳、声枯れ等でいつもと様子が違う時はバイタル測定をして医師に指示を仰ぐ。又その様子を職員に情報を性格に報告している。	○	一部の職員によっては、情報が共有できていないこともあるのでミーティング、申し送り徹底していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が把握しやすいように独立したファイルを作り理解を深めている。薬の説明書を必ず読んで理解している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防は、心がけているが、センナ茶、ラキソベロン等に頼りがちで体を動かしたり、気分転換による排便の促しは、忘れがちである。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と就寝前は、口腔洗浄を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の栄養バランスを考え水分量も一人ひとりの状態を考えて瀬摂取できるよう支援しています。		咀嚼の問題のある人、嚥下に問題がある人等個別に、刻んで食べやすくしたり、お粥にしたり支援して皆さん美味しい!!と食欲旺盛です。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアル、研修を受講して全員で予防に努めています。	○	今後も研修等を引き続き新人にも受講の機会を作り意識付けをしていきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限過ぎの物は絶対に使わない、3食の食材はその日のうちに使うように 配達されています。調理用具は煮沸消毒、日光消毒をしています。職員も、ご利用者も手洗い、嗽の励行に努めています。	○	清潔、不潔の度合いが分からない職員がいることにはびっくりし、今後の課題としていきます。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者の家族の希望で門の鍵は、かけていますがチャイムを押していただければどなたでも出入りは出来ます。	○	2年前までは、門の鍵もかかっていなかったため近所の方も出入りが良かったかとは思いますが。子供たちも自由に遊びにこられたりしていましたので少し残念なことも感じます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を飾り、夏には出掛ける際のそれぞれの帽子を掛けたり、いつも明るく毎朝掃除の際、夏は、玄関に水を打ち、生活観、季節感を(クリスマスツリー、お雛様を飾り、七夕を飾り、おせち料理、門松)感じていただいています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で食後ゆっくりお茶を飲みながらそのまま会話が弾んだり、畳のところでテレビを見て寛いだり、ソファに横になっていたり、歌を口ずさみながら洗濯物を取り込んだりと自由に過ごされています。		目が不自由な利用者さんが畳みの段差が危険なので取り外しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や御家族と相談して使い慣れている家具、好みの洋服、御家族の写真、馴染みの鏡台等を活かして居心地良く過ごしていただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日2～3回は空気の入替えを行い温度調節、湿度調節、を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋で、全てバリアフリーになっていますので車イスでも安心して生活が出来ます。	○	リビングが広く手摺までが遠いので歩行困難な利用者が移動しやすい様にソファを置いたり、途中でベンチで休んでいただいたりして安全に移動出来るように工夫をしています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者基本情報シート、アセスメントを活用してどこをお手伝いしたら失敗や、混乱が無く暮らしていけるかカンファレンスで意見を出し合って、職員がその時のタイミング、間、人的環境を工夫しています。	○	声のトーン、物音に大変敏感な利用者、には特に職員のペースでの声かけ、声のトーンには充分には配慮し混乱や失敗なく暮らせるように指導しています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周を散歩を楽しめるように花を植え裏は危険の無いようにテラスにしてある。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人の気持ちを大切に、できるだけ自立支援に向け、できること、できないことを把握し本人ができないといっても少し手伝えばできることを引き出して

自信となり喜び合い、信頼関係を築いて、居心地よく安心して暮らせる所だと思って頂き、その人らしく過ごして頂ける様に取り組んでいます。アルツハイマー型で不安で興奮されていても見極めてタイミングを見てその人にあった声かけ、やさしさには自信があります。

平屋でバリアフリーになっていますので車椅子の方でも安心して入居できます。